

## 平成２７年度 第４回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 平成２８年１月１９日（火）午前９時３０分から午前１１時４２分

【場 所】 宗像市役所北館 ２階 ２０２会議室

【出席者】 宗像市長 谷 井 博 美  
教育委員 川 上 美 子  
教育委員 中 岡 政 剛  
教育委員 宮 司 葉 子  
教育委員 白 石 喜久美  
教育長 遠 矢 修

【その他の出席者】 教育子ども部長高橋勇次、子どもグローバル人材育成担当部長清水比呂之、市民協働環境部長福崎常喜、文化スポーツ担当部長鶴英樹、市民協働環境部理事兼文化スポーツ課総合スポーツセンター建設準備室長磯部輝美、教育子ども部主幹指導主事齊藤智恵美、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事西島潔、教育政策課指導主事高木陽一郎、教育政策課指導主事守浩一郎、秘書政策課長長谷川勝憲、学校管理課長竹下俊史、子ども育成課長中野万由美、子ども育成課社会教育主事久保謙司、子ども育成課社会教育主事薄伸也、図書課長長谷川愼、文化スポーツ課長岡田光晴、コミュニティ協働推進課参事村上治彦、教育政策課政策係長許斐知加、秘書政策課秘書政策係長飯野英明、教育政策課政策係企画主査舩越健樹、教育政策課政策係主事川原由梨乃、教育政策課政策係主事八木孝平

### １ 開 会

【谷 井 市 長】 平成２７年度第４回宗像市総合教育会議を開催いたします。

【教育政策課長】 本日は、宗像市学校教育基本計画に基づく宗像市アクションプラン２０１６に掲げられている３つのテーマについてご協議をお願いしたいと考えております。各テーマでは、担当から説明を申し上げた後、質疑応答を行い、２０分ほど協議懇談を行います。協議事項の１項目目です。「確かな学力を育む教育について」です。

### ２ 協議事項

#### （１）平成２８年度 教育における主要事業について

##### ・ 確かな学力を育む教育について

【守 指 導 主 事】 ここでは、各種の学力テストの結果を基に宗像市の現状及び現在の取り組みについて説明をします。まず、宗像市の現状について、平成２７年４月に実施されました全国学力・学習状況調査の結果をもとに説明します。平成２７年度の全国学力・学習状況調査では国語、算数、数学、理科が実施され、小学６年生と中学３年生が受験をしています。国語、算数、数学は基礎的な内容であるＡと知識の活用の内容であるＢがあり、Ａ、Ｂそれぞれ時間を区切って実施しています。理科は３年に１回の実施で４０分のテストの中に知識と活用の内容が含まれています。このグラフでは宗像市の平均を青、全国平均を赤で示しています。６年生ではすべて

の項目で宗像市の平均が全国の平均を上回っています。特に、国語のB、算数のBにおきましては、全国平均を4ポイント以上上回っています。中学3年生では宗像市の平均は全国の平均を上回っている項目が多いですが、数学Aだけは全国の平均よりも1.6ポイント下回っています。このような宗像市全体の現状の中、学力を向上させる取り組みを充実させることが重要になります。次に、学力向上に向けての各学校や市の施策の取り組みについて説明します。各学校の取り組みについて、各学校では学力向上プランを作成し、授業改善や補充学習、各自検定など組織的に取り組むようにしています。授業改善では、少人数指導や習熟別指導など子ども一人一人にきめ細かい指導を行うなど、校内研修や教室訪問を行っています。また、学習した内容を確実に定着させるために、昼休みや放課後を利用して補充学習を行っています。例えば、赤間小学校では、学力向上支援教員が中心になって毎週火曜日と木曜日の昼休みに空き教室で算数の補充学習を行っています。また、土曜授業を利用して保護者に丸つけをしてもらう活動を実施しています。日の里中学校では月に2、3回程度、放課後に各学年の学力における下位層の生徒を対象に先生や大学生のボランティアによるマンツーマン指導を行っています。さらに、それぞれの学校で音読や掛け算を実施し、合格した時にはシールや認定証を渡して達成感を持たせる取り組みをしています。その他、兼務授業として中学校の先生が小学校で授業を行うなどしています。また、学び方を中学校区でそろえたり、学習の手引きを配布したりして、学習の積み上げを図っています。家庭学習について、小学校では中学校の定期テスト期間を利用してチャレンジウィークと命名して、保護者に家庭学習の様子を見てもらうなど、小学校だけでなく中学校区で行う取り組みもあります。次に、確かな学力を育むための宗像市の施策について、宗像市では学力向上支援教員を小学校に17名、中学校に5名配置しています。学力向上支援教員は担任と一緒に説明をしたり、一人が黒板を書いているときにもう一人が子どもたち一人一人に支援を行ったりと、工夫して学習指導を行っています。次に、ALTの配置について、宗像市ではALT9名とALTマネージャーを1名配置しています。担任の先生が中心となって指導を行うとともに、ALTも子どもたちに積極的にかかわるようにして、聞く、話す、読む、書く、の4技能のバランスが取れたコミュニケーション能力を身に付けさせ、積極的なコミュニケーションをとる子どもを目指しています。学校情報化事業について、子どもたちが興味を持って学習に臨んだり、自分たちの学習を振り返ったりできるように電子黒板やタブレット端末を利用した授業を行っています。また、宗像市のICT支援員と学級担任が協力し、教材を開発することも行っています。福岡教育大学との連携について、今年度、福岡教育大学とはICT教育、外国語活動、特別支援教育で連携事業を行っています。ICT教育では玄海中学校と河東西小学校の授業で効果的に活用できる方法を検討しています。外国語活動では赤間小学校で子どもたちが外国人と英語で積極的にコミュニケーションができるような方法を検討しています。

【教育政策課長】 私から学力向上施策について補足説明をします。平成28年度の学力向上支援事業の新たな取り組みとして、放課後の学習指導を全学校で実施させたいと思っています。また、小中一貫教育事業について、学園コーディネーターの雇用人数の拡充を行います。学校、家庭、地域との協働事業及び教育力の充実を図るため現在4名を配置しておりますが、一定の効果がみられるので、一名増員し、5名の雇用を考えています。それから、福教大との連携事業について、教職員の資質向上として小学校教員の英語力の強化を図りたいと思います。

【中岡委員】 現在の中学校3年生は3年前の小学校6年生の時より、全国や福岡県と比

べて学力がどのように変化したかわかりますか。

【守 指 導 主 事】 平成27年度の中学校3年生の3年前、平成24年度の小学校6年生時の成績について、全国平均とのポイントの差ですが、国語のAについては、小学校6年生時にはプラス0.3ポイントでしたが、中学校3年生時ではプラス0.4ポイントですので、3年間で0.1ポイント高くなっています。国語Bについては、小学校6年生時にはマイナス0.9ポイントでしたが、中学校3年生時ではプラス0.8ポイントですので、3年間で全国平均と比べ1.7ポイント高くなっています。算数、数学Aについては、小学校6年生時にはマイナス0.1ポイントでしたが、中学校3年生時ではマイナス1.6ポイントですので、1.5ポイント低くなっています。算数、数学Bについては、小学校6年生時にはプラス1.4ポイントでしたが、中学校3年生時ではプラス1.1ポイントで0.3ポイント低くなっています。理科については、小学校6年生時にはプラス0.5ポイントでしたが、中学校3年生時では0.6ポイントですので、0.1ポイント高くなっています。これらのことから算数、数学は小学校6年生時に比べたら低くなっていますが、国語、理科は若干高くなっていると言えます。

【中 岡 委 員】 経年の変化だけでなく、なぜそうなったのかという原因を検証していかないといけないと思います。そこに学校の取り組みや教育行政の取り組みが見えてくるのかなと思います。

【谷 井 市 長】 全国学力・学習状況調査は色々と非難もありますが、私は全国学力・学習状況調査のテストは一つの基準であり、子どもたちの学力を考える材料になるのかなと思います。そういう意味でも、中岡委員がおっしゃるように、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、取り組みを工夫していただきたいと思います。

【川 上 委 員】 全国学力・学習状況調査は確かに分かりやすい指標の一つだと思いますし、学校もこれを基準に自分の学校の取り組みの評価としてとらえていると思います。

【中 岡 委 員】 全国学力・学習状況調査で学力を図る科目は国語、算数、理科ですが、それだけが学力のすべてではないと思います。音楽や体育など、その他の技能教科もすべてが確かな学力につながるということは押さえておく必要があり、子どもたちの総合的な力を見ていかないといけないと感じております。

【谷 井 市 長】 全国学力・学習状況調査だけでなく、子どもたちの総合力を高めるために色々な取り組みを実施していると思いますが、費用対効果について点検していく必要があるし、成果を出してもらいたいと思っています。

【教育子ども部長】 費用対効果について、私どもは税金を使って予算を執行しておりますので、予算に見合った成果が必要になります。数字だけが成果かというと教育はそれだけでは測れないと思いますが、何らかの指標は必要となります。今回のような学力の数値等を明らかにしながら市民に説明していくという事が私たち行政の使命であると考えています。また、中岡委員がおっしゃった点数だけが学力じゃないという事について、アクションプランの中で知、徳、体、これらのバランスがあって初めて教育が成り立つと示しておりますので、3つの領域を明確にしながら事業を推進したいと思っています。

【谷 井 市 長】 学力の向上には先生に対する指導力アップが必要だと思います。先ほど話がありましたが、何か補足はありませんか。

【教育子ども部長】 来年度の事業の取り組みについて、教師の指導力アップが大事ではないか

と思っております。特に来年度の着目科目が英語でございます。ALTをこれまで5人から7人に一昨年から増員して取り組んでいます、根幹をなすものが教師の指導力だと思っております。福岡教育大学で英語の習得院が実施されますので、英語力アップのために教師を参加させる取り組みをいたします。

【谷 井 市 長】 子どもについてはいろんな施策に基づいた取り組み、教師については、指導力をアップするための具体的な実行計画を進めてもらいたいと思います。また、実行した施策に対する点検をしていただきたいと思います。

【白 石 委 員】 教師の研修について、他面に渡って時間を確保していきたいという事ですが、研修に時間をかけ、なおかつ自分で勉強する時間が取れていない先生もいらっしゃると思います。研修が負担になり、結果として子どもたちに不利益を与えてしまうのではないかと心配しているのですが、教育委員会としてそのあたりもサポートしていただきたいと思います。

【教育子ども部長】 教育委員会としまして、色々な事業を進めるのと反面、負担をどのようにして軽減していくかという事が大事なポイントになるかと思っております。そういった意味で来年度の事業について、負担軽減の部分で言いますと、先ほど話がありました補充学習を始める事、これは教師が中心になって動かないといけないことは確かですが、福岡教育大学の学生を用いて教師の負担軽減を図ることができます。また、学園コーディネーターは地域コミュニティと学校との連携をしてもらい、地域コミュニティの協力を得て、学園コーディネーターがフォローアップすれば教師が夜の会議などに出ていく必要も少し軽減できるのかなと思います。その他、来年度は小学校全校に校務支援ソフトを導入したいと考えております。

【教育政策課長】 1項目目の協議を終了します。引き続き2項目豊かな心を育む教育について協議をしたいと思います。

## ・豊かな心を育む教育について

【高木指導主事】 全国学力・学習状況調査の学習状況の結果を示したものです。全国を黄色、宗像市を赤色で示しております。①自分には良いところがある、②夢や目標を持っている、③学校が楽しい、④学級みんなで協力したことがある、これらは宗像市が指標として用いているものでございます。小学校については現在のところ残念ながらすべての項目で全国平均を下回っているというような状況でございます。次に、中学校について、②夢や目標を持っている、③学校が楽しいという項目につきましては全国平均を上回る状況でございます。このような状況の中、児童生徒の豊かな心を育成するという事を目指し、道德教育の充実、特別活動の充実、読書活動の充実、それを支える宗像市教育委員会の支援について説明します。まずは、道德教育の充実について、道德教育を充実させるために道德教育推進教諭を中心に作成する全体計画を作成し実践を行う。各学校における重点指導を図る年間指導計画の立案を行う。人間関係環境、体験活動の充実を行う。活動の公開を行う。資料を適切に活用した道德の時間の充実を行う。このような視点で道德教育を充実させているところです。これは宗像市が行っている学校の日における大島小中学校での道德の授業公開の様子です。教師としては道德の授業を公開することにより、その授業の力量を高めるとともに、地域の方に対しては道德教育を実践していることを示しています。また、子どもは豊かな心・道德に対する心を地域の方に見てもらいながら育てていくという取り組みの一環です。続きまして、特別活動の充実について、全教師の共通理解を図る全体計画の作成

と実践、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事ごとの年間計画の作成と実践、児童生徒の自主的、実践的な態度や健全な生活態度の育成を重視した学級活動の充実、体験活動、交流活動の充実を通し、豊かな心の育成を目指しているところです。まずは、学級活動の充実について、学級活動は子どもを自主的、実践的な態度に育てるうえで非常に重要な教科学習となります。この写真は学校での話し合い活動の様子です。自分たちのことを話し合い、何をするか決め、そして実践し振り返りを行う。まさに自分たちで行う活動を通して心を育てていく授業です。また、これも同じ学級活動の授業です。望ましい生活をしていくうえで自分たちに足りないものは何なのか、自分たちでその視点を発見しどうすればいいのかを考える授業を展開しています。学校の日にこのような授業を地域の方に見ていただいています。体験活動、交流活動の充実として学校には様々な体験活動がございます。これは宿泊体験学習の様子です。宿泊体験学習は小学校単体で行うのではなく、小中一貫を受け、同じ中学校に行く小学校が合同で行うような形も多く取られております。小中一貫に関する行事はこのような宿泊活動だけではありません。日の里中校区、中央中学校区で行われている小中合同の遠足、地域の清掃活動、運動会でのボランティアなど様々な体験活動が行われているところです。このような小中の交流活動を行う事により、中学生は小学生を見る目が優しくなり、小学生はあのような中学生になりたいという心を育てる大切な行事だと考えております。さらには、新規に学ぶ体験活動もそれぞれの学校で行われているところです。海岸を清掃する、菊を育てる、祭りに参加するなどそれぞれの地域の特色を生かした学習が展開され、その体験を行っています。続きまして、読書活動の充実について、学校では学校司書や読書ボランティアを活用した豊かな活動、図書を使った調べる学習コンクールへの積極的な参加、学校図書館を利用する年間指導計画の作成と実践、このようなことを行う事によって図書館の利用の活性化を図り、読書の推進を行っているところです。特に、図書を使った調べる学習コンクールでは、年々その参加状況、参加数が多くなってきているところです。最後に、宗像市教育委員会の支援について、このような学校の取り組みを支援するための資料を提供する。職員研修会を行う。福津市との共催研修を行うなどの支援があります。人的、物的支援としましては、学力向上支援教員、学園コーディネーター、わくわくwork等学校支援関連事業を行っています。連携上の支援として、子どもの学びの場づくりの支援などを行っています。さらに、不登校児童生徒について、11月現在児童が9人、生徒が44人となっております。これに対応するためにそれぞれの学校で取り組みが充実しているところです。それぞれの学校で家庭への働きかけ、子どもたちができるだけ学校に足が向くように教師によるマンツーマン指導というものを行っております。それと同時に、家庭児童相談所とも協力し、相談しているところです。また、適応指導教室を開設し、子どもたちの教科の学習指導体験活動などを行い、学校生活に早く復帰できるように促しているところです。予防策としまして、スクールソーシャルワーカーを今年度より配置しております。スクールソーシャルワーカーは、学校、家庭、地域をつなぐ大事な役割でございます。平成27年度は県の事業で城山中学校区に1名配置という形で行っております。最後になりますが、このほかにも子どもたちの豊かな心を育てる、故郷を愛する、宗像を愛する心を育てることとしてそれぞれの学校で、総合的な学習の中で故郷学習が展開されています。また、それが系統立てて展開されるように支援を進めているところです。それと同時に、世界遺産学習につきましても、世界遺産学習検討委員会を作って、今後対応していくことで検討を重ねているところでございます。

【教育政策課長】 補足として各課から平成28年度の特色をお伝えします。教育政策課からは、世界遺産の推進学習について新規事業化をしております。平成29年度の世界遺産登録に向け、全中学校で世界遺産学習に取り組んでいきたいと考えています。平成28年度につきましては世界遺産学習に取り組む全国組織で奈良市が事務局の世界遺産学習推進協議会に加入をします。それと世界遺産学習の検討委員会を、教職員を中心に発足しようと考えております。この検討委員会につきましては具体的にはカリキュラムや教材の作成、副読本の作成などを検討して参りたいと思います。それから別途校外学習のための予算も計上しているところでございます。続きまして、教育相談事業でございますが、スクールソーシャルワーカーを今年度は県配属事業で1名城山中に配置しておりますが、先生方からの期待感が大きいという事で来年も引き続き市の単独予算で1名配置したいと考えております。これにつきましては、他の学校でも非常に期待感があるとの事ですので、不登校対策や非行対策、教員の負担軽減、この辺の効果が検証できれば拡大の方向で取り組んでいきたいと考えております。

【子ども育成課長】 子ども育成課からは、社会教育で実施しております子どもの居場所づくり事業について、子どもの実態として、子どもの養育環境に格差が出てきており、子どもの貧困も社会問題となっております。一方、子どもへの過干渉の親も増加しており、子どもが自ら育つチャンスを奪っている傾向があります。こうした子どもを取り巻く環境の中、子どもの権利を保障しながら、学校でも家庭でもない子どもの居場所、様々な体験の場を地域と連携し、創出していく必要がございます。そこで、平成28年度も子どもの居場所づくり事業を通して子どもの育成を進めます。地域における子どもの居場所は徒歩圏内が望ましいという観点から、引き続きコミュニティや支援活動団体等を利用しながら、地域での自然体験や生活体験を含めた子どもの居場所づくりを進めます。遊ぶことをテーマに実施しておりますプレーパークにつきましても、地域でも放課後プレーパークや出張プレーパークを拡充しながら場所の充実を図っていきます。また、プレーパークの拡充に向けては、コミュニティに対しハード整備の補助金を交付し、支援していきます。続きまして、地域の寺子屋事業への支援の活性化について、地域の寺子屋事業の取り組みを拡大していくことは、子どもたちの学力向上は勿論、大人と子どもや大人同士の人間関係の関わりが豊かになり、社会全体の教育力の向上につながっていくことが大きく期待されます。放課後子ども総合プランにより、すべての就学児童の放課後等の学習や体験交流活動を推進していることから、今後、補助金の活用により地域の子どもの居場所づくり事業を支援しながら拡大していきたいと考えています。平成27年度は岬地区、吉武地区の寺子屋事業を展開しておりましたが、平成28年度はそれを6地区に拡大し支援をする予定でございます。

【図書課長】 図書課からは、アクションプランに記載してありますとおり、様々な学びのベースとなる読書活動の充実、それから、学校の図書館につきましては益々活用を推進します。朝読等で読書ボランティアを活用して豊かな読書活動を推進しておりますが、特に平成18年度から取り組んでいる調べる学習コンクールに力を入れたいと思っております。平成18年度当時は471件の応募数でございましたが、平成27年度には1976件と参加が増えております。このことにつきましては、調べる学習の取り組みが効果を表しており、宗像市は非常に取り組みが良いとお褒めをいただいているところでございます。それから、読書リーダーにつきましては、小学生読書リーダー養成講座をさせていただいており、子どもたちの自主性も出てくるし、周りの方に見ていただいても好評な事業でございます。この辺に力を入れていきたいと同時に、平成

28年度から中学生も読書リーダーを養成するという講座を新規に立ち上げたいと思います。

【谷井市長】 「音楽があふれるまち」というのが私の施策になっていまして、社会教育的な意味から音楽を子どもたちに広めたいと思っております。人の心を豊かにするというのは音楽だと思っています。学校の取り組みとして授業で行っているのをどう充実させるか、今後議論していただきたいと思います。

【宮司委員】 子どもの居場所という体験の場、コミュニティとか寺子屋事業、放課後の子どもたちの居場所というのはとても大事であると思っています。また、調べる学習コンクールについて、一回も参加したことがない子どもが参加するにはどうしたらいいのか考えたら、さらに増加するのではないかと思います。

【中岡委員】 学校の図書館も蔵書冊数の基準があると思いますが、宗像市の場合は学校図書館の蔵書数の標準はすべて達成しているのか教えてください。

【図書課図書館係長】 小学校につきましては、地島小以外はすべての学校で標準を満たしております。中学校につきましては、未達成の学校が2校ございます。蔵書が多いだけではいけないと思っていますので、古くなって使えないような資料につきましては、整理しながら新しい本を増やしていくことにしています。目標は図書標準を満たすことであると考えております。

【中岡委員】 大規模校については本棚の関係で蔵書を増やすことができないこともあるかと思いますが、配慮する必要があるのかなと思います。また、読書の推進について、家読が新たな取り組みとして大事なことだと思うのですが、調べる学習コンクールなどの施策の事業と上手くつなげて、子どもたちが家でも本を読む、調べるというようなことができるといいのかなと思いました。

【図書課図書館係長】 蔵書の件について、本棚がないという問題もありますが、図書標準に達成していない学校につきましては資料費の予算を加配して増やすような取り組みをしていきたいと思っています。また、家読について、来年度から始まる宗像市読書のまちづくり推進計画に家読の推進を挙げておりますが、学校の協力があつて、家読の取り組みができるのではないかと考えておりますので、学校と連携を取りながら、どのような方法で家読を推進できるか検討したいと思っています。

【谷井市長】 今の子どもたちは本を読まない傾向がありますが、読む力は学力向上につながりますし、その点では宗像はそれなりの成果が出ているのではないかなと思います。

【中岡委員】 学習状況調査について、今の社会では夢や目標を持たないことが外国と比べて低い事が問題になっていると思いますが、私は学校が楽しいと感じているかという項目がむしろ問題なのかなと感じております。小学校において宗像市は全国より低いので、要因を追究していく必要があると思います。私が考えるに、宗像市は教育活動が充実しており、それは本当に良いことだと感じておりますが、充実しすぎているあまり、その活動の多さが負担になることもあるのではないかと思います。

【齊藤主幹指導主事】 学習状況調査は4月に行われ、これは全国で実施しているものですが、学級が変わったばかりであるという状況は全国も同じ状態ですので、比較した時、低い結果となっていることは課題であるとは思いますが、しかし、宗像市では12月に学習意識調査をしております、学校生活が楽しいかという同じ質問をしております。12月時点の数値では全国平均を上回っていますので、一概に4月時点での結果だけでは測れないと思っています。

【教育子ども部長】 学校教育の中で補充学習の話をしましたが、家庭と地域にもそのことをお願いしていかないといけないと思っていますし、子どもの居場所づくりについても地域にお願いしていかないといけないと思っています。吉武地区は寺子屋事業がコミュニティの先進的な取り組みであり、そこから地域の子どもは地域で育てていることをコミュニティにお願いしていきたいなと思っています。寺子屋事業は岬地区、玄海地区、日の里地区、吉武地区の4地区がこれまでございましたけれども、来年度はこれに加えて赤間西地区と南郷地区に具体的な取り組みを働きかけていきたいと思います。これで、12コミュニティのうちの6コミュニティの準備ができようかと思しますので、それ以降は拡大が加速するのではないかという期待を持っております。

【谷 井 市 長】 塾と違い、寺子屋は遊ぶこともでき、地域との関わりもできますので、是非実施してください。

【子どもグローバル人材育成担当部長】 宮司委員から話がありました外での体験が少なくなっているとのことですが、平成28年度についてはプレーパーク事業を展開していくということを想定しております。放課後にNPOが中心になってメイトム宗像を拠点にプレーパーク事業を行っており、それに加えてコミュニティでプレーパーク事業を展開できるようにしようと考えております。

【教育子ども部長】 特別支援教育につきましては、来年度日の里西小学校に通級指導教室を開設いたします。これは発達障害の児童生徒の対応のためにこれまで自由ヶ丘小学校と中央中学校に一箇所ずつ準備をしておりました。小学校の対応児童数が多くなってきましたので、日の里西小学校に新規に開設をいたしまして対応したいと思います。

【教育政策課長】 2項目目の協議を終了します。引き続き3項目健やかな体を育む教育について協議をしたいと思います。

#### ・健やかな体を育む教育について

【西島指導主事】 体育に関することについて、宗像市の現状と現在の取り組みの状況を説明させていただきます。まず、全国体力・運動能力・運動習慣等調査について、全国の小学校5年生、中学校2年生の全児童生徒を対象に握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50メートル走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、20メートルのシャトルランの8種目を5月から7月の間に学校でテストを行います。成果指標といたしましては、合計点において全国平均以上を成果指標としております。この図の青色のグラフが宗像市の結果で、赤色が全国平均の結果になっております。小学校5年生に関しましては、全国に比べて1・9ポイント上回っております。小学校の女子は、0・9ポイント上回っております。中学校2年生の男子は0・9ポイント下回っております。中学校2年生女子は0・1ポイント上回るという結果でした。次に、4年間の経年で見ますと、小学校5年生男子では、当年度が全国平均より一番多く上回る結果になりました。小学校の女子につきましても、本年度が全国より上回りが最大という事になっています。続きまして、中学校2年生男子では全国平均より下回っていますが、全国平均に近づいてきているという結果になります。それから、中学校2年生の女子につきましては、初めて全国平均を上回るという結果になりました。次に、同一児童生徒について、3年前の小学校5年生時と今の中学校2年生時についてですが、男子は変わっておらず、伸びが見られないということになりました。女子は0・9ポイントの伸びが見られるという結果になっております。次に、各学校の現在の取り組みについて、自校の体力実態をもとに、実効性のある体力向上プランの作成と確実な実施を行



っております。体育の授業だけではなく、学校全体で組織的、継続的に取り組む1校1取り組み運動を行っております。視点1としまして1校1取り組みの「取り組みの名前」、視点2としまして体力テスト調査結果等の分析、視点3で目標指数、数値の設定、視点4で1校1取り組み運動の設定、視点5で評価方法を書くようになっております。これはある学校の取り組みですが、視点1で1校1取り組み名が「みんなで楽しもう体力アップ集会」とし、体力テストの結果について視点2で分析、考察をしております。その結果、視点3のところで、指標数値を設定して、視点4でスポーツ委員会での取り組み、体育学習での取り組み、学級活動としての取り組み、体育的行事での取り組みを設定し、視点5で評価を行うようにしております。続きまして、市の施策の取り組みですが、小学校体力テストの支援、民間のスポーツ指導者等の派遣、福岡教育大学との連携について説明をさせていただきます。小学校の体力テストの支援としまして、市のスポーツ推進委員に来ていただいて、体力テストの支援をしていただいております。このように運動のポイントを子どもに説明し、そのあとテストを行う取り組みをしております。それから、民間のスポーツ指導者等の派遣について、宗像サニックスブルースによるラグビーの指導、トヨタ九州陸上競技部による走り方の指導といった取り組みも小学校では行われております。それから、福岡教育大学との連携に関しまして、自由ヶ丘南小学校ではボール投げの課題解決に向け、大学と連携してボール投げの指導を行っています。ここでは、テニスラケットを使っての腕のまわし方を説明してもらい、家庭や休み時間でも遊んで運動機能を向上するようなゲームなどを行っています。

【学校管理課長】 食に関する充実について平成27年度の現状と平成28年度の取り組みについて説明いたします。平成27年度の取り組みの状況ですが、人材育成、学校・家庭・地域が連携した食育事業、子どもを対象とした食育事業に取り組みました。まずは、人材育成について、教師等の研修として参加者の資質向上、指導力の向上を図るために健康づくりに関する指導研修会、食育担当研修会、栄養教諭等研修会、非常勤任用栄養士研修会を実施しました。写真は食育担当者研修会で、自由ヶ丘南小で実践した事例をゲストティーチャーからお話していただいている様子です。また、研修会とは別に学校支援策として県栄養教諭が配置されていない学校に対して、市雇用の栄養士9名を学校へ配置しており、県栄養教諭の配置を含めて全校の食育充実に寄与していると考えております。次に、地域、つまりPTA活動の施策として学校・家庭・地域連携食育推進事業を推進しております。これは、平成19年度に実施している事業で各学校独自の企画による事業を申請することにより補助金を助成しております。今年度は12校の小学校と3校の中学校が実施しており、低学年では収穫の喜びや地域の方への感謝を狙いとした情操の面を培っており、高学年になると収穫後の加工や流通など自らの調べが加わり意欲的に取り組んでいるのが見受けられます。また、PTA主催では魚さばき教室の利用が多いという状況です。最後に、子ども料理名人育成塾、チャレンジ料理名人を実施しました。県栄養教諭の企画運営で子ども料理名人育成塾は夏休みに2日開催し、料理への関心、相互扶助、望ましい食生活への実践力を養うのが目的です。チャレンジ料理名人は小学校全校で夏休みの自由研究として取り組みをしており、家庭で調理した作品をレポートとして提出してもらっています。家庭内での料理会話、料理への関心のみならず、レポートでは文章での表現、つまり国語力の育成にもつながっていると考えております。以上のような取り組みにより、宗像市における朝食摂取率は小学校6年生で平成27年度は全国平均よりわずかに下回っていましたが、福岡県では過去2年間、中学校3年

生を含めて宗像市は高い状況であると理解しております。次に、平成28年度の取り組みについて、研修会に関しては今年度より効果的な研修会になるように計画しております。学校・家庭・地域連携食育事業の展開についてですが、今年度で9年目となり事業自体がマンネリ化していることもあり、学習指導要領に基づいた各学校の食に関する指導の全体計画との連動性がないと考えております。そこで、次年度は全学校が、学校・家庭・地域連携食育事業に参加するよう働きかけるとともに、平成29年度以降に向けて事業の総点検を行い、食育に関する答申と計画を上げたいと考えております。また、家庭での食育の意義を理解してもらう目的で、PTA対象の講演会を開催したいと考えております。

【文化スポーツ課長】 民間のスポーツ指導者等の派遣について、宗像サニックスブルースによるラグビーの指導をすべての小学校で行っていただいておりますが、今年度から幼稚園、保育園でも指導していただいております。それから、福岡教育大学との連携について、今年度から小学校2年生を対象にすべての小学校で行っておりますが、運動技能の獲得を促す運動や音楽を活用した運動プログラムを実施し、実証させていただいております。結果が出ておりますので紹介します。男子のボール投げでは最大で8.6メートルほど距離が伸びました。女子では最大で5メートルほど距離が伸びたという結果が速報で出ています。それと、1月に予定していますが、自由ヶ丘南小学校では体育指導として、塚原体操教室にマット運動の指導をしていただくことにしています。それと、今年度までですが、日本サッカー協会の心のプロジェクトとして夢の教室事業を南郷小学校で5年生を対象に実施しました。内容としては元サッカー日本代表の高田保則さんにお越しいただきまして自己紹介、ウォーミングアップを含めて35分間、体育館でやっていただいて後、トークの時間といたしまして夢に向かって努力することの大切さ等をお話いただきました。それから、海洋性スポーツ体験授業も実施しております。これにつきましては今年4月にオープンいたしました勝浦浜の海洋性スポーツセンターにおきまして、玄海小学校、地島小学校、玄海東小学校、日の里西小学校、自由ヶ丘南小学校の5校が勝浦浜におきまして海洋性スポーツ体験をいたしました。

【川 上 委 員】 体力テストの測定の方法と子どもたちのモチベーションのあり方について、一貫した基準がなく測定されているのではないかと疑問に思っていました。だから、本当に体力がないのか測定方法を宗像市で統一した状態で測って比べないと本当の数字での判断はできないかなと思っています。小学校の先生で体育の専門ではない人は、コツを教えることなく実施しているという事を私もお聞きしました。体育指導員のような専門の知識を持っている方に入ってきて、活用していただくと学校現場としてもありがたいのではないかなと思います。また、自由ヶ丘南小学校において、ボール投げの指導者が来られた授業を拝見しました。その時におっしゃっていたのが、以前の子どもたちは屋根にボールを放り投げて遊ぶことを自然にやっていましたが、今の子どもはそういう事もできないのが現状であるとおっしゃっていました。そこで、先生方は休み時間に遊べるように体育館でブルーシートを張ってブルーシートにボールを放り投げて落ちてくる遊びができるような、予算もかからず工夫をして簡単にできる遊びを始めましたと聞いています。先ほどの子どもの居場所づくり等もありますが、自然の状態で遊ぶ環境をいろんな場所に整えていって、子どもたちが本当に自然な形で遊ぶことも一つの体力向上につながると思います。

【谷 井 市 長】 一番大きな問題は、学校の先生方も指導する能力が十分ではないことかと

思います。ですので、体育指導員のような専門の知識を持った方を活用していくのはいいのではないかと思います。

【教育子ども部長】 体力や食に関して、学校だけでは成し遂げることができない部分が非常に多いだろうと思います。学校では基礎、基本を身につけ、地域には教育委員会から啓発していく必要があると思います。そういった意味でも学校における諸課題を地域に意見を求めながら一体的に進めて行きたいと思っております。

【久保社会教育主事】 食育のことについて、幼稚園・保育園から家庭でもっと食べ方の教育をして欲しいとの要望が出ておりまして、家庭で親が子どもに食べ方を教えることができる親の教科書のようなものが作れないかなと考えております。

【教育政策課長】 3項目目の協議を終了します。

## (2) その他

【教育政策課長】 その他、何かございますか。

【各 委 員】 特にありません。

## 3 閉会

【谷 井 市 長】 それでは、すべての項目について協議終了しましたので、第4回宗像市総合教育会議を閉会いたします。次年度は3回程度の開催を予定しています。日程については追って連絡します。